

蜂用防護服使用の手引き

《必ずお読みください！！》

市では、ご自身で蜂の巣を駆除される方に、無料で蜂用防護服の貸し出しを行っております。駆除を行う際、防護服の下には万が一に備え厚手の服を着用し、安全面には十分お気を付け下さい。また、市販の蜂用駆除スプレーなどの薬剤をご使用ください。

蜂の特性について

蜂は、毎年初夏から夏にかけて巣作りが活発になり、住宅地でも数多く見うけられます。市内に生息する蜂は、主にミツバチ、アシナガバチ、スズメバチの3種類で、それぞれ特性に違いがあります。

スズメバチ

体長3 cmを超える大きな蜂で、攻撃性・^{いかく}威嚇性が高く、毒性も強いことから、刺されると非常に危険です。**巣の大きさに関わらず専門の業者に駆除を依頼することをお勧めします。**

巣は、働き蜂の数によって、次第に形が変わります。最初は、とっくりを逆さにした形の巣が多いですが、働き蜂の数が多くなるにつれて、ボール状に近い形に変化していきます。そして、外側のマーブル模様もくっきりと目立つようになっていきます。

アシナガバチ

体長2~3 cm程度の大きさで、スズメバチほど狂暴ではありませんが、攻撃性・^{いかく}威嚇性があるため、十分な注意が必要です。

巣は、外殻がなく、六角形の巣穴がたくさんあり、巣穴が下か横をむいています。

ミツバチ

体長1~2 cm程度の大きさで、他の蜂に比べ攻撃性は弱いですが、巣作りの際には適した場所が見つかるまで、数百匹~数万匹で群がり、移動しながら飛来しています。この状態の蜂は、一般的におとなしいとされていますので、大群がいるからといって、むやみに刺激を与えず様子を見守ってください。また、お子さまには、興味本位で刺激を与えないよう注意してください。

蜂の巣駆除についての注意点

ハチは暗くなると巣に戻り、活動が鈍るため、日没以降に駆除作業を行いましょう。

光に反応するので、懐中電灯を使用する場合は、巣を直接照らさないでください。また、音に対しても非常に敏感なため、作業中はできるだけ音をたてないように気を付けてください。

蜂の巣の撤去は危険を伴います（特にスズメバチ）。駆除を行う専門の業者に、依頼（費用は依頼者負担）する事もお考えください。

天井・床下・羽目内の蜂の巣駆除の場合

1. 隙間が出来ないように、ガムテープなどで目張りする。
2. くん煙剤やスプレーを散布し、蜂が弱ってから作業する。

<作業の前に>

1. 蜂の種類、巣の位置、大きさ等を確認する。
2. 駆除方法、使用薬剤等を検討する。
3. 防護服を点検する。
4. 用具を確認する。
5. 洗濯物を取り入れる。
6. 窓を閉める。
7. 周辺住民に蜂の巣を除去すること及び注意事項を知らせる。
8. 作業する人以外は屋外へ出ないようにする。
9. 巣から十分離れた所に人を配置し、通行人に注意を促す。
10. 蜂を刺激しないよう注意する。
11. 周辺の状況を把握し、危険物等の有無を確認する。

<作業手順>

1. 慎重に巣に近づき巣と巣の周りにいる蜂に薬剤を散布する。
スズメバチの場合巣の入り口から薬剤を散布する。
2. 同時に丈夫な袋で巣を包む。
3. 蜂が活動しなくなったのを確認後、巣を除去する。
4. 巣のあった付近に、再度、薬剤を散布する。
5. 駆除した巣を入れた袋に薬剤を散布し、袋の口を堅く閉める。
6. 周りに落ちている巣の破片、蜂の死骸をすべて回収する。
7. 戻り蜂がいるため、巣のあった付近にしばらくの間近寄らないよう付近の住民に注意を促す。
8. 防護服、用具等を点検し返却する。（借用日の翌日までに返却）

※防護服についた汚れは、乾いたタオルでふき取ってください。

洗濯するとコーティングが取れるため洗濯しないでください。

防護服は、たたんで返却してください。

<薬剤>

殺虫剤（ピレスロイド系殺虫剤、アブ、ハチ、スズメバチ用が有効）を屋内で使用する場合は、窓を開け、換気をよくして使用すること。

また、引火しないよう火の元に注意すること。